

山形工場に量産向け工場新築

少量多品種ラインと併せて

納期、コストの対応力向上

（株）佐竹製作所（本社）東京都千代田区神田須田町。尾方謙一社長）ではこの度、生産体制を強化

するため金属部品加工事業の生産拠点である山形工場敷地内に新工場棟を建設。設備導入等の準備期間を経て、10月下旬より本格的に操業を開始する予定である。

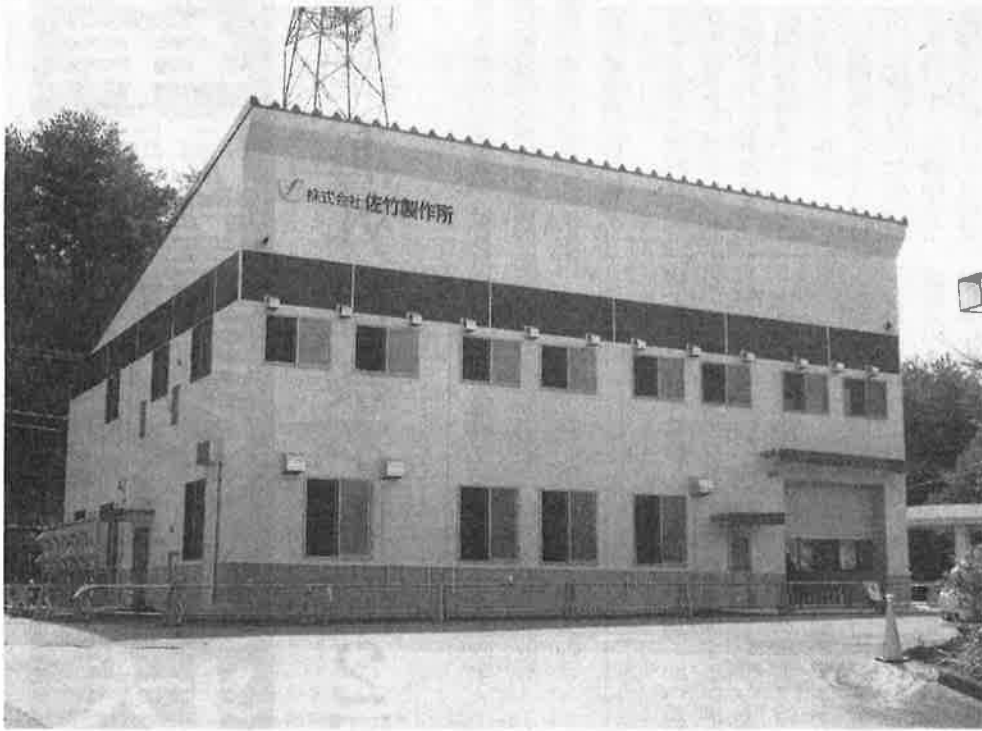
この新工場棟は、昨年に子会社化した三興工業（株）の継手ブランド商品を同工場内で製造可能な体制を整えることを目的としている。山形工場は従来、少量多品種生産体制であったが、これに加えて大量生産ラインを確立した。これにより、工場内におけるさまざまな対応能力の拡大を図りながら顧客に更なる短納期化と低コストのサービス提供を目指していくとしている。

佐竹製作所の事業分野は多岐にわたる。一般ねじ製品はもとより圧造・

鍛造・切削・プレス部品や継手、各種センサーに至るまで幅広く手掛けて

いる。山形工場（山形県西置賜郡飯豊町大字添川）では、平成2年の操

業開始以来、切削・研削・表面処理・熱処理・溶接・組立・検査などの各



山形工場の敷地内に竣工した大量生産ラインの新工場棟全景

工程を工場内で一貫して行える体制を敷き、セミオーダーメイドの金属部品づくりにおいて多品種、小ロット、短納期による提供を行ってきた。また、セミオーダーメイドの金属部品は短納期を求められる場合が多いため、工場は土曜と祝日も通常稼働し、スピードと柔軟性を重視することで競争力の高いものづくり体制を確立している。

昨年7月には、OEMメーカーとして同社と約18年間に渡る取引関係にあった、ガス配管継手メーカーの三興工業（東京都大田区）を子会社化した。これに伴い、山形工場に商品設計機能・自動洗浄機・クリーンルーム・電解研磨装置などを加えることが必要となった。また、少量多品種生産に特化した同工場において、新たな分野となる大量生産体制の確立のため、工場敷地内において新工場を建設する運びとなった。新工場は今年4月に建設工事が始まり、8月下旬に竣工。設備搬入など稼働への諸々の調整期間を経て、10月下旬より本格的に操業開始する予定である。建屋は鉄骨2階建てで、1階が工場、2階は倉庫・作業場・事務所など。延床面積は720㎡。

昨年7月には、OEMメーカーとして同社と約18年間に渡る取引関係にあった、ガス配管継手メーカーの三興工業（東京都大田区）を子会社化した。これに伴い、山形工場に商品設計機能・自動洗浄機・クリーンルーム・電解研磨装置などを加えることが必要となった。また、少量多品種生産に特化した同工場において、新たな分野となる大量生産体制の確立のため、工場敷地内において新工場を建設する運びとなった。新工場は今年4月に建設工事が始まり、8月下旬に竣工。設備搬入など稼働への諸々の調整期間を経て、10月下旬より本格的に操業開始す